

「バイオマスエネルギー化事業」について

阿部 樹範



阿部 産業技術総合開発機構（ネド）による、野草を利用したエネルギー化事業は本年で終了した。事業終了後はネドの責任で施設の撤去等をする約束ではなかったか。

江藤市民部長 当初、阿蘇市が手を挙げた事業であり、事業終了後の事は明確ではありませんでした。

阿部 事業は継続する事となったが、本年度事業費5千万円の内、市民の税金を約3千万円も投入することから、経費を最小限にするため一般会計予算の修正動議まで提出された。この事業は根本的に市民の税金の無駄遣いと思う。

市民部長 対外的にも阿蘇市が環境面に積極的に取り組む姿勢を見せることは大事なことです。今後、他の事業に取り組む上で重要と考えます。

阿部 市民へのアンケート結果が重要視されている。市民約3万人の内、約1千人程度を対象にして市民の約8割が賛成であるかのように結

論づけていることは問題である。

市民部長 調査において一部問題点もあったと思いますが、草原を大切にすることは住民の総意だと考えます。

阿部 今回バイオマスタウン構想が出てきたが、菜の花プロジェクトや米からプラスチックを作ること等は、花火みたいに自然消滅するのではないか。

市長 阿蘇市が自然景観を大切に、後世に伝えるためにも私どもが今、力を入れるべき問題と考えます。



バイオマスエネルギー施設（アゼリア）

大蘇ダム問題について

松永 勲



松永 大蘇ダムは、当初の130億円の4.5倍の593億円を投じてようやく完成したものの、水の溜らないうやく完成したものの、水の溜らないうやく完成したものの、水の溜らない欠陥ダムとして多くの問題が発生してきた。

そういう中に国との交渉で、受益地の阿蘇市と竹田市で温度差があるのではないか。受益地一体の共通認識、統一行動で交渉に当たるべきと思うが。

渡邊経済部長 竹田市は水田が中心、阿蘇市は畑作が中心であり、水利用の条件が異なること。特に畑作においてはこの30年間の農業環境、社会環境が大きく変化する中で、後継者が思うように育たない、基盤もできていないと言う事で竹田市との温度差が生じていると思います。しかし波野地域の農業振興について水は非常に大切であり、足並みを揃えて国との交渉に当たります。

松永 ダムの漏水防止工事は、国の全責任で施工させるべきと考えるが。

経済部長 製造者責任と言う事で、国が全責任で計画通りのダムを作ってもらおう考えです。

松永 受益農家の負担金は、絶対に負担増にならないように国に強く要求すべきと考えるが。

経済部長 工事負担金については、受益者の負担はありませんが、阿蘇市については、約5億円程度の負担があります。また、維持管理費については、営農が確立する当分の間は市町村が負担する可能性があります。

他に「バイオマスエネルギー実証実験について」の質問がありました。



最近の大蘇ダム

仙酔峡道路(ダイワ団地・青少年交流の家)に防犯等整備を



藏原 博敏

藏原 仙酔峡道路沿線にダイワハウス団地と、国立青少年交流の家がある。古代の里美術館までは東阿蘇繁栄会が設置した立派な街路灯があるが、交流の家入り口までの約1kmは殆んど無灯状態であるが。

佐藤総務課長 行政では設置していません。

藏原 交流の家は年間14万人を超える方々が研修に利用する教育的施設、ダイワ団地は旧一の宮町の誘致企業であって、現在約百戸の住居が建ち並ぶ新興住宅地でもあり、今後増設が見込まれる。防犯灯の設置は、それぞれの行政区で建てていて、電気料は市で負担という事が基本だが、このケースのように、既存の集落とかけ離れた地区の場合、財源の捻出に無理がある。防犯灯設置のルール見直しが必要ではないか。

総務課長 同じようなケースは数多くあります。設置費用、維持経費など一部地区に特別扱いは難しいと思います。



無灯風景(宮地)

他に「県道内牧・坂梨線の改修に一層の努力を求める」の質問がありました。

藏原 一定規模の大型住宅地や阿蘇市にとって重要な施設等に対するルールの見直しを求める。今定例会で、内牧街路灯の整備事業を国交省の補助事業で進めることが承認された。喜ばしいことである。仙酔峡道路についても、補助事業等で早期実現することを要請する。

坂梨総務部長 市全体を見直し、抽出する時間をいただきたいと思えます。

自然エネルギー自給率は



赤星 永幸

赤星 自然エネルギー自給率において、五木村は水力発電で供給可能率15.99%と全国一位だが阿蘇市は何%か。

岡田市民環境課長 現段階では、把握はしておりません。

江藤市民部長 自然エネルギーとしては、基本的に水力発電が中心と思いますが、阿蘇市においては太陽光発電が一番だと思います。

赤星 太陽光発電の勉強会を行ったと聞くが。

渡辺企画振興課長 メーカーを呼んで勉強会を行いました。

赤星 太陽光発電は国も補助金を出す制度があるが、大津町では独自に補助金を出している。阿蘇市においても助成制度の余地はあるか。

市民環境課長 環境に優しい問題ですので検討していきたいと思えます。

赤星 国際観光都市を目標に、世界文化遺産登録を目指している阿蘇市である。阿蘇清峰高校においては、



自然エネルギーソーラーシステム

他に「田園空間博物館について」の質問がありました。

企画振興課長 基本的には、自然エネルギーを利用する事が理想だと思いますが、夜間電力を使う考えであり、コストの面で厳しいと思っております。